

# 对人攻撃性

# 攻撃性の定義

- 他人に望まない危害を加えようとする行為およびそれを行うための傾性
- 身体的、精神的な衝撃を与えること
  - 「いじめ」も攻撃的である
- 本人を直接攻撃しなくても、威圧したり威嚇することも攻撃性とみなす
  - 怒鳴ること、物に対する八つ当たりも攻撃的
  - 破壊行為も攻撃的
- 攻撃は意図的な行為

# 攻撃性の種類

- 言語的攻撃
  - 「このバカ」
- 身体的攻撃
  - 蹴る、殴る、ひっかく、打つ、撃つ、刺す、押す
- 精神的攻撃
  - 睨み、しかめ面、眼を張る
- 対物的攻撃
  - 八つ当たり

# 攻撃性の理由

- 本能的な自己防衛的反応
- 欲求不満への対処
- 感情の高まりによる反応
- 目標達成のための道具
  - 説得的手段
  - 対人影響の手段
  - 自己呈示

# 攻撃性の説明（生態学的）

- 生態学的説明

- ホルモン説

- テストステロンと攻撃性の関係
    - 凶悪犯罪の性差

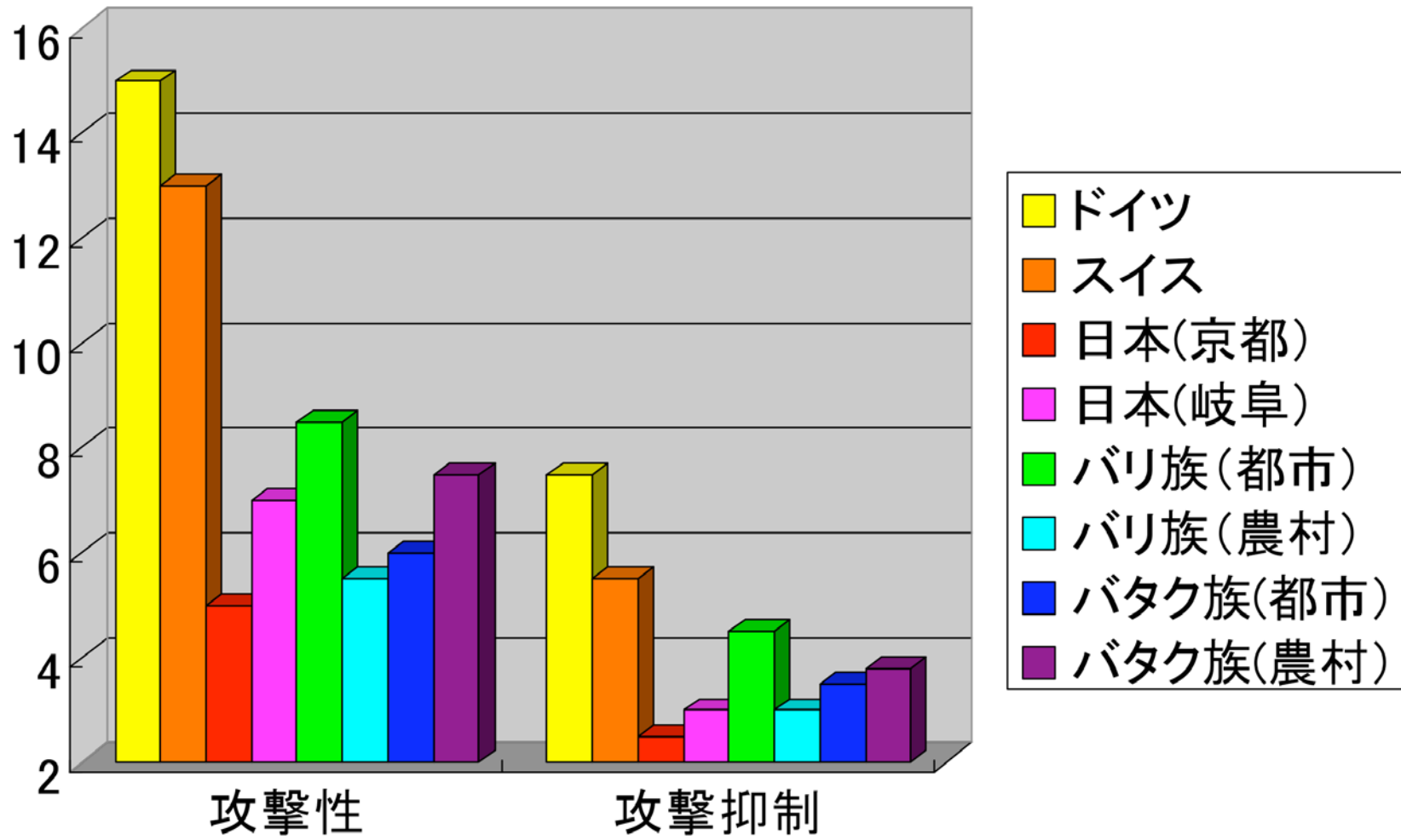
- 本能説

- フロイトの精神分析（性的欲求の阻害）
    - ダーウィンの進化論（生殖、捕食、縄張り、子孫防衛）

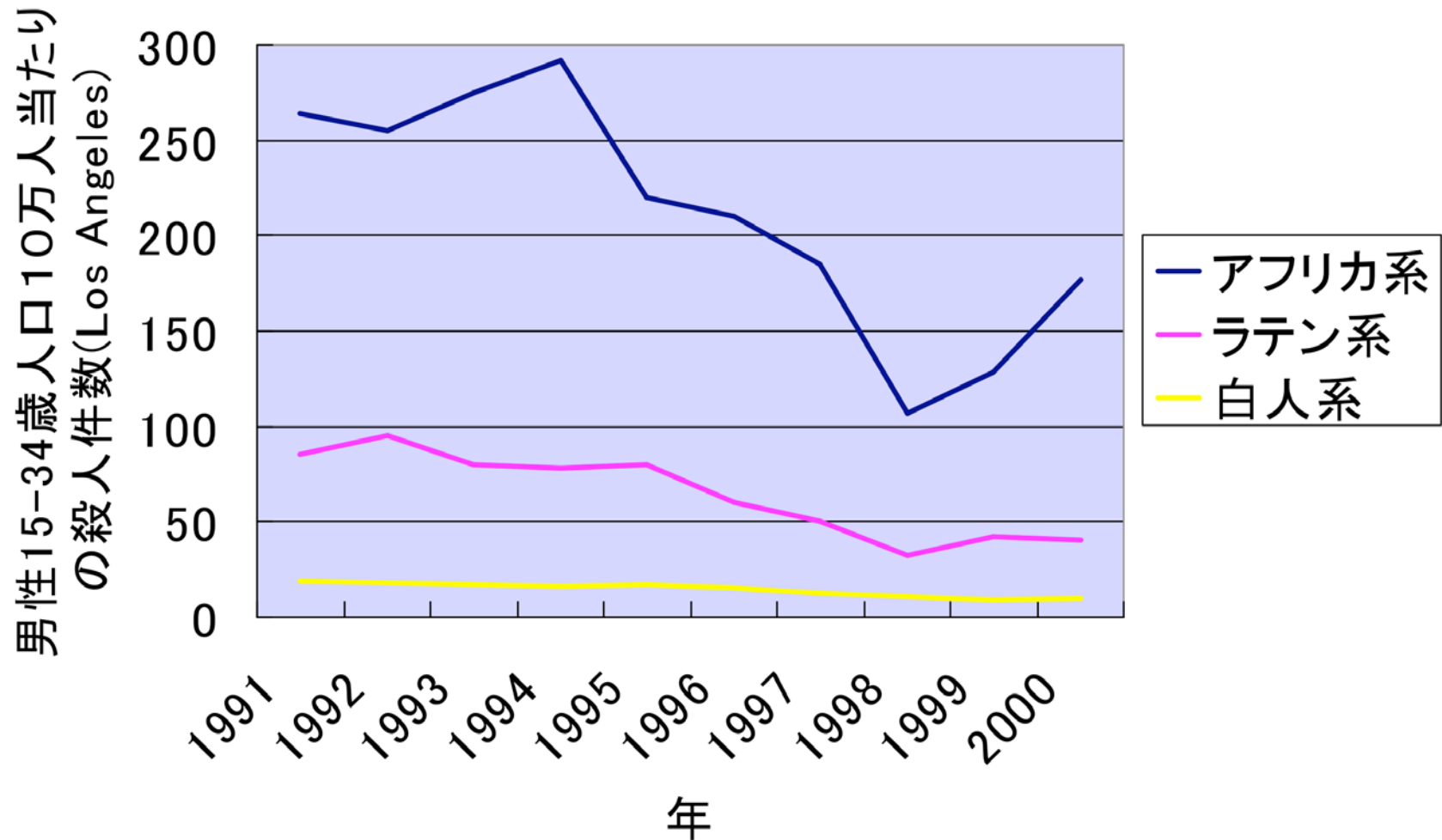
- 脳障害説

- 側頭連合野の異常

# 攻撃性の民族比較

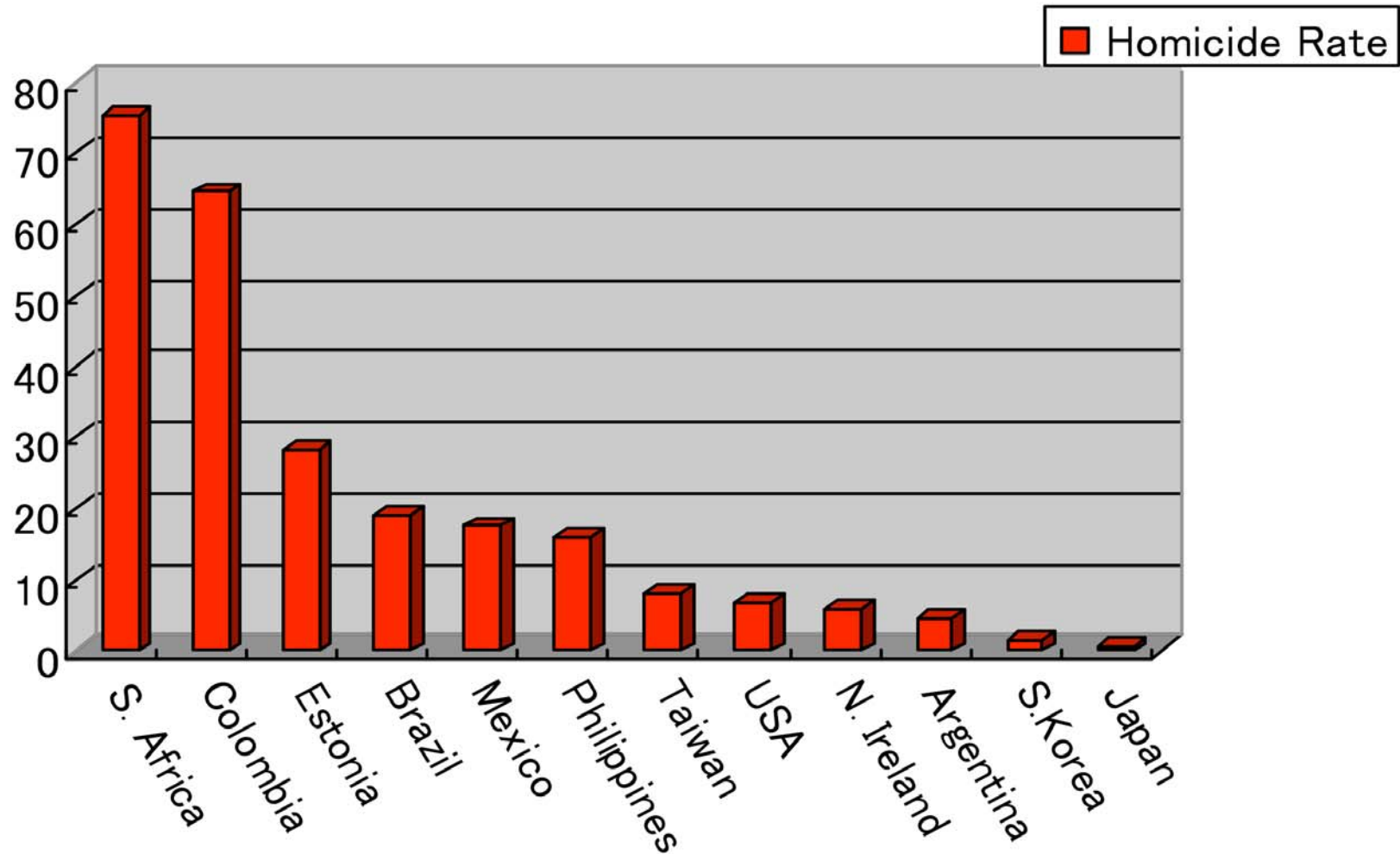


# 民族別に見たロスにおける殺人事件 被疑者数



# 殺人率の国際比較

Homicides Per 100000

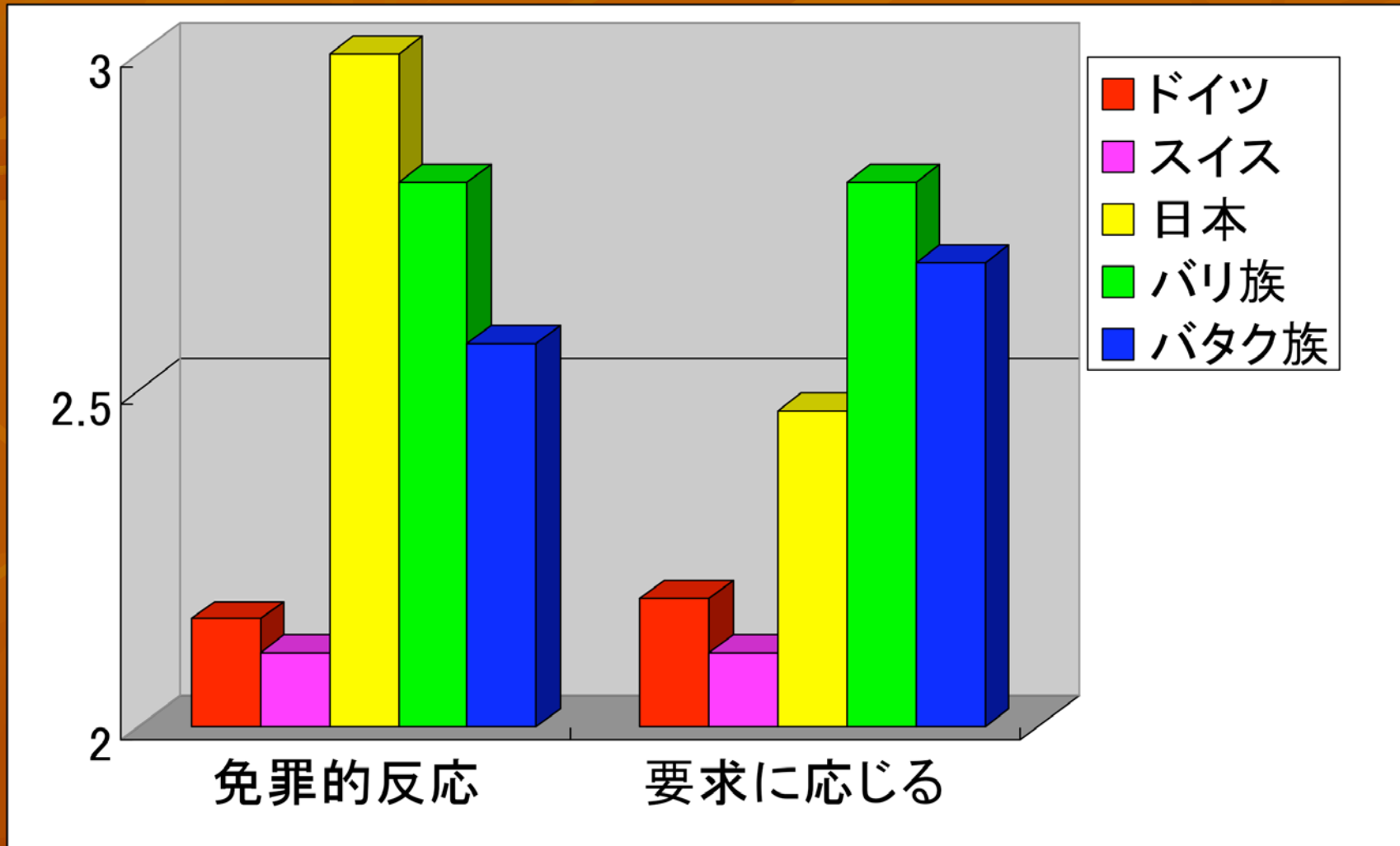




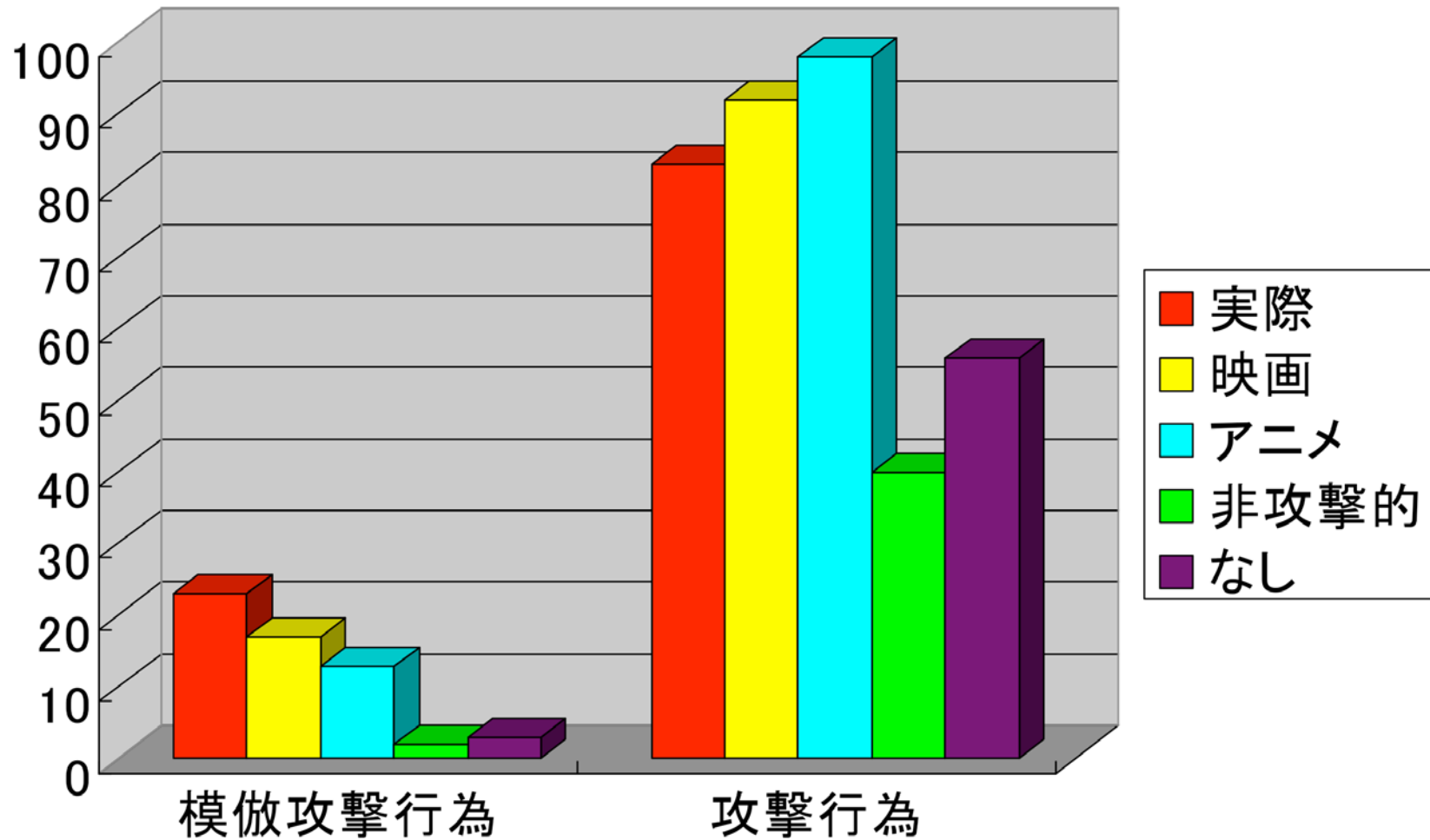
# 攻撃性の説明(社会的学習)

- 社会的学習説
  - 社会的学習理論とは
  - 攻撃性の社会的規範の学習
    - 模倣説
    - 社会化・強化説
    - 自己防衛説
  - 攻撃性を促す合図
    - 引き金説

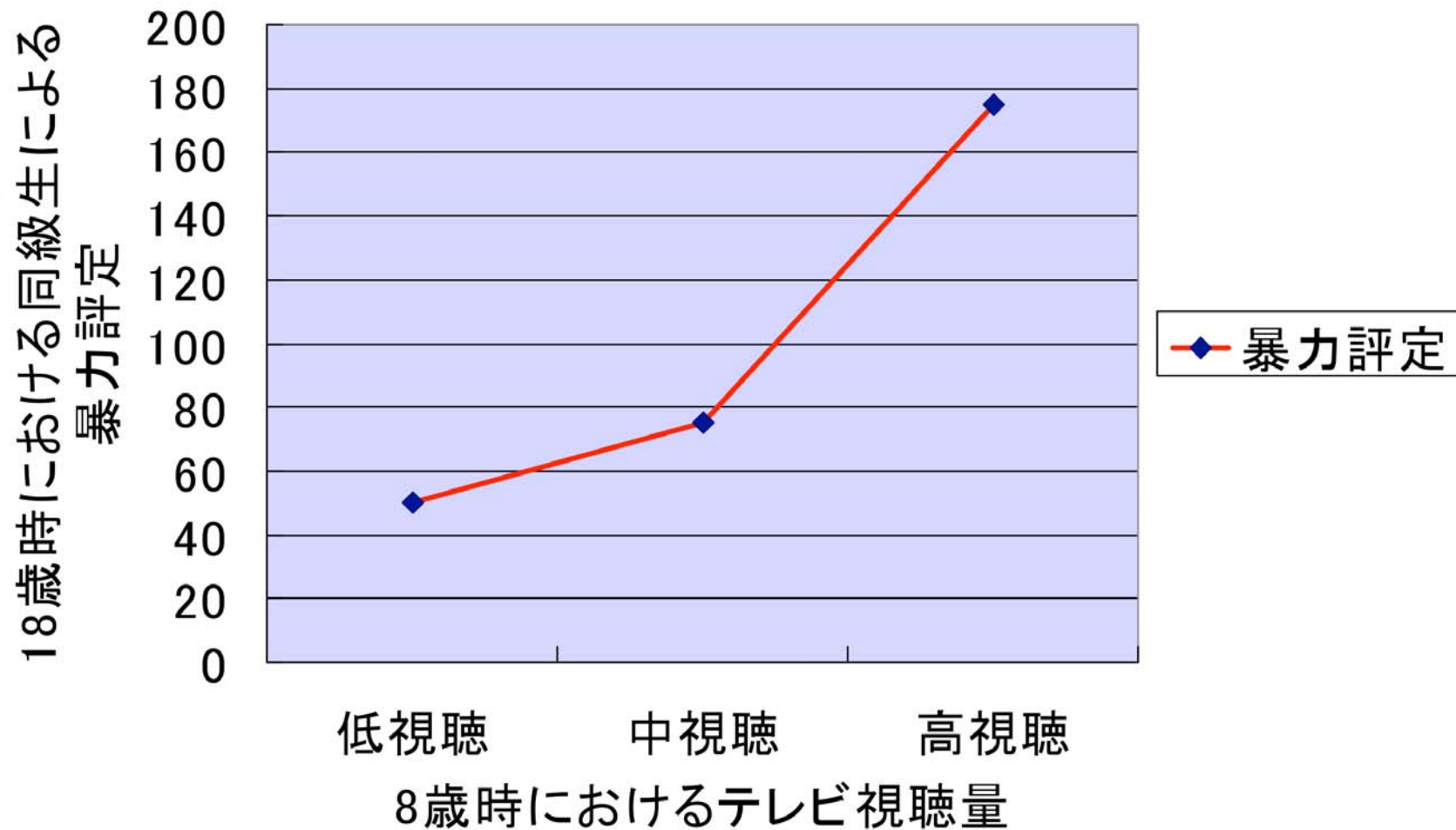
# 言うことをきかない子へ母親の反応



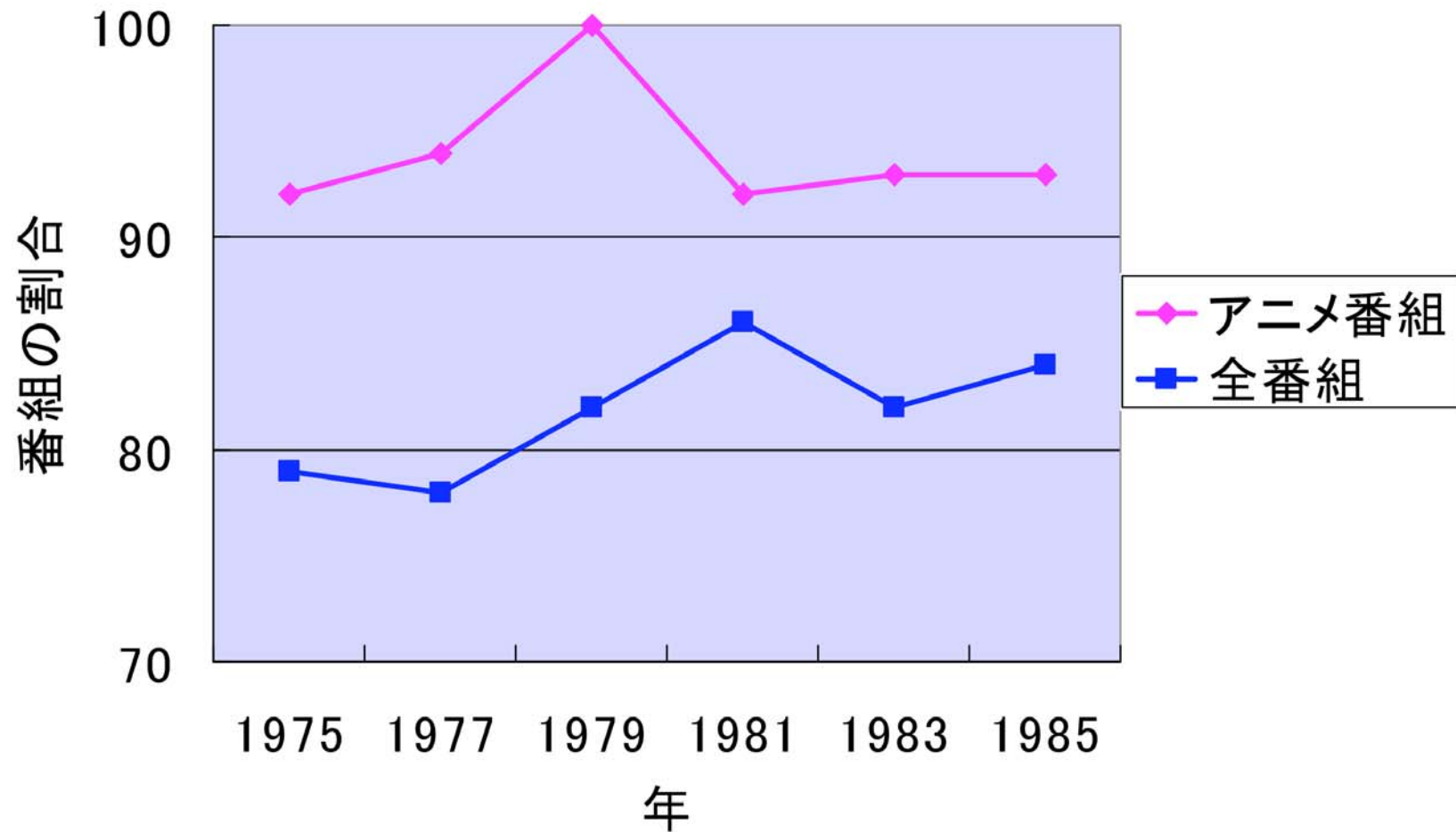
# 子どものモデル提示後の攻撃行為



# 児童時におけるTV暴力視聴と成人時における暴力度



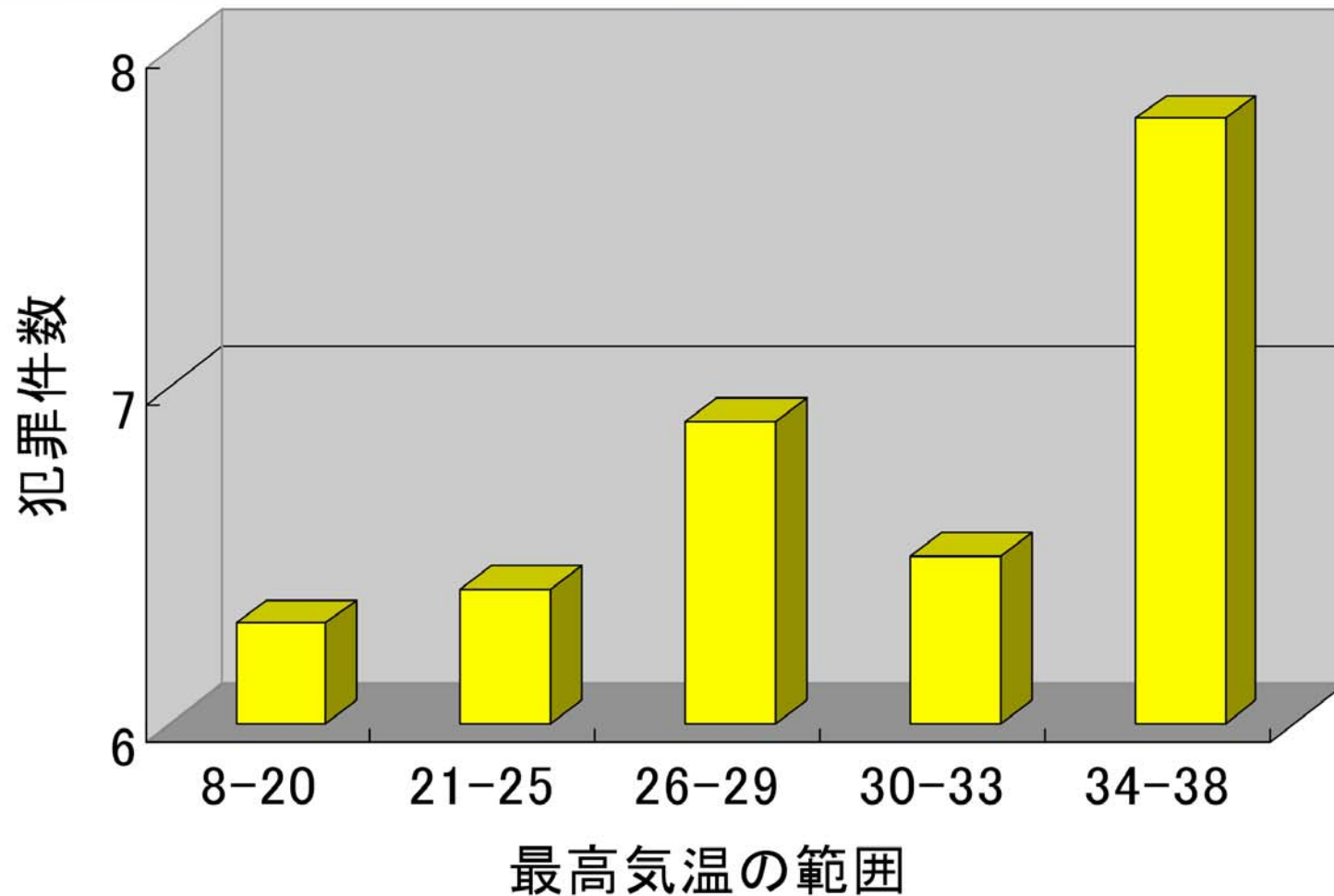
# 暴力内容のあるTV番組の比率



# 攻撃性の説明(個人的要因)

- 遺伝
  - ホルモンのバランス
  - 知能・パーソナリティー
- 過去の経験
  - 個人的経験、家庭・生育環境、交友関係など
- 現在の状況
  - ストレス、欲求充足、物理的環境

# 最高気温と暴力犯罪件数の関係

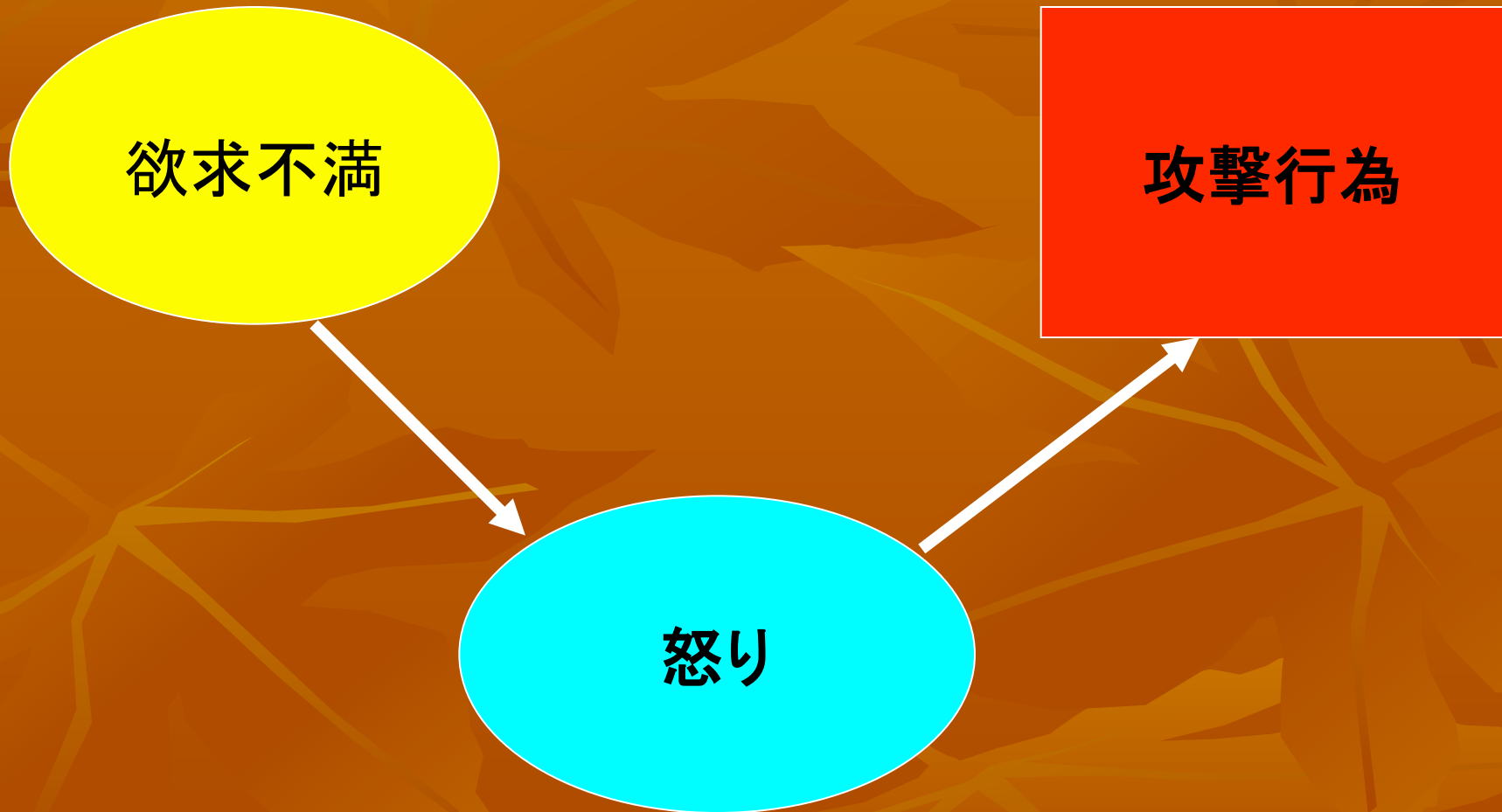


# 攻撃性の説明（介入変数）

- 態度・信念
  - 人間性に関する信念、宗教、道徳、社交性など
- 認知的スキーマ
  - 期待される報酬・制裁
- 感情
  - 怒りと攻撃性
- 性格特性
  - A-type性格
- 知能
  - 深く考えない、長期的視野欠如、怠惰、単純な葛藤解決、満足感の欠如、衝動の抑制能力



# 怒りと攻撃性との関係



タイプA人格

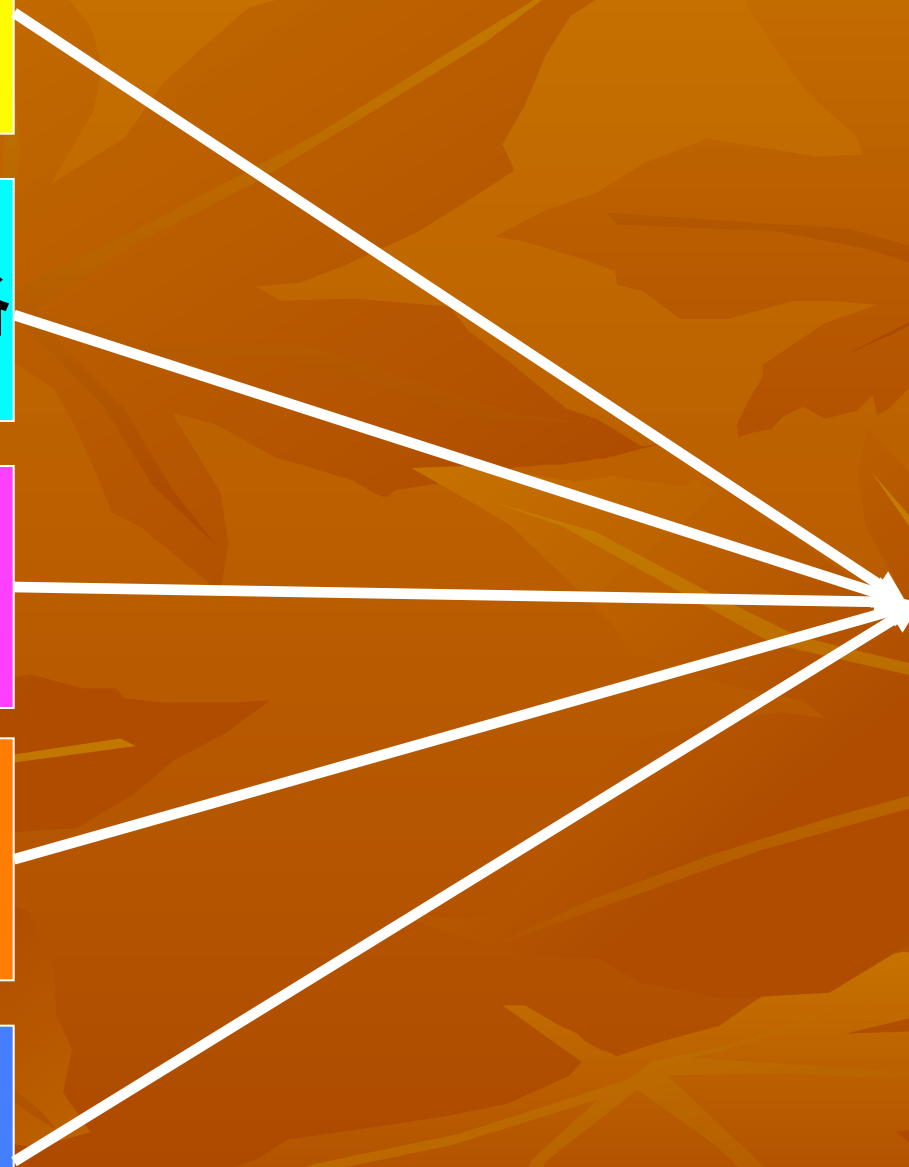
パライド的人格

権威主義性

支配欲求

非共感性

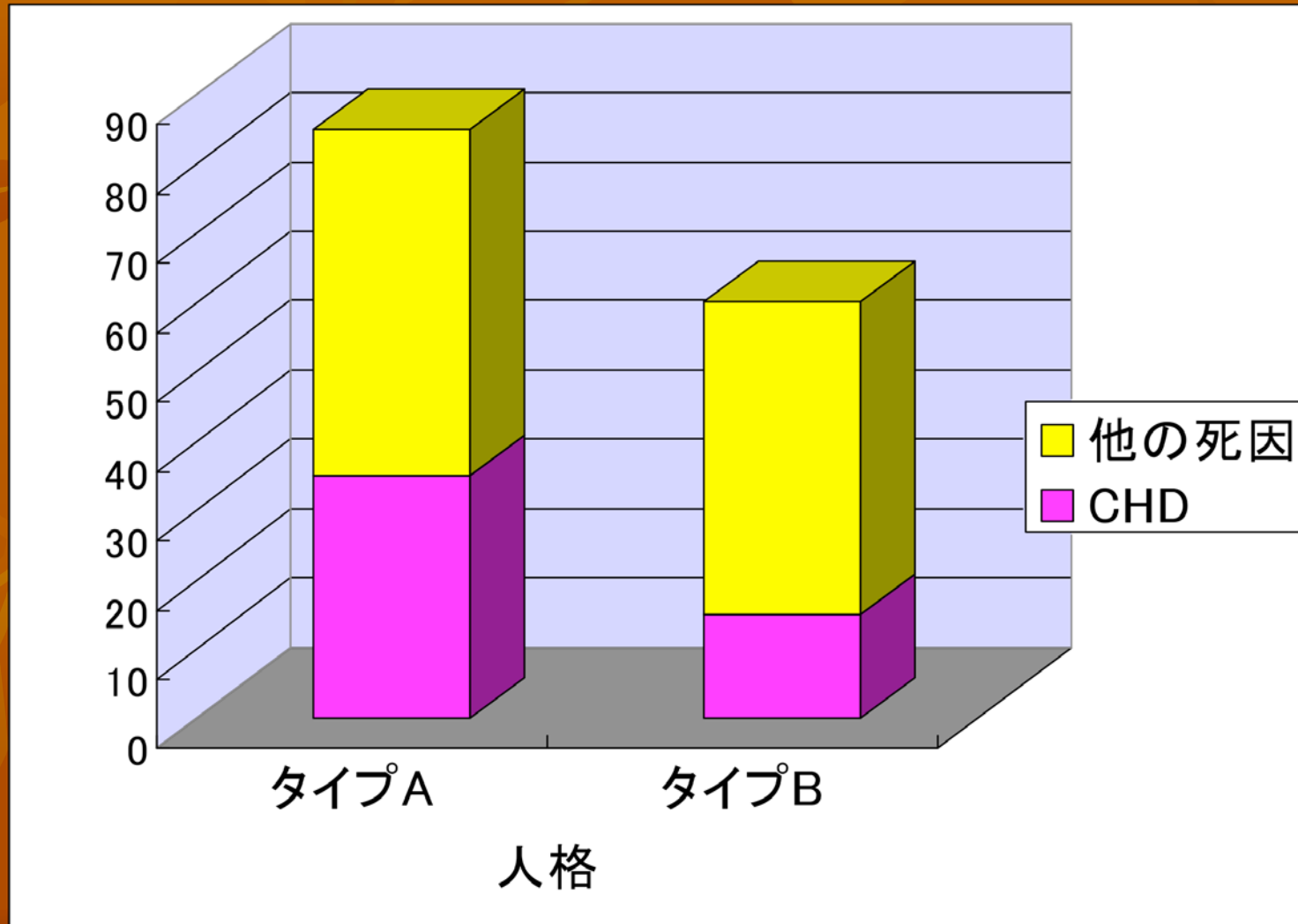
攻撃行為



# タイプA人格とは

- 活発な身体的活動
- 緊張した表情や姿勢
- 語調の強い話し方
- いらいらして、短期
- 強い競争心
- 仕事上の野心と焦り
- 時間的余裕のなさ

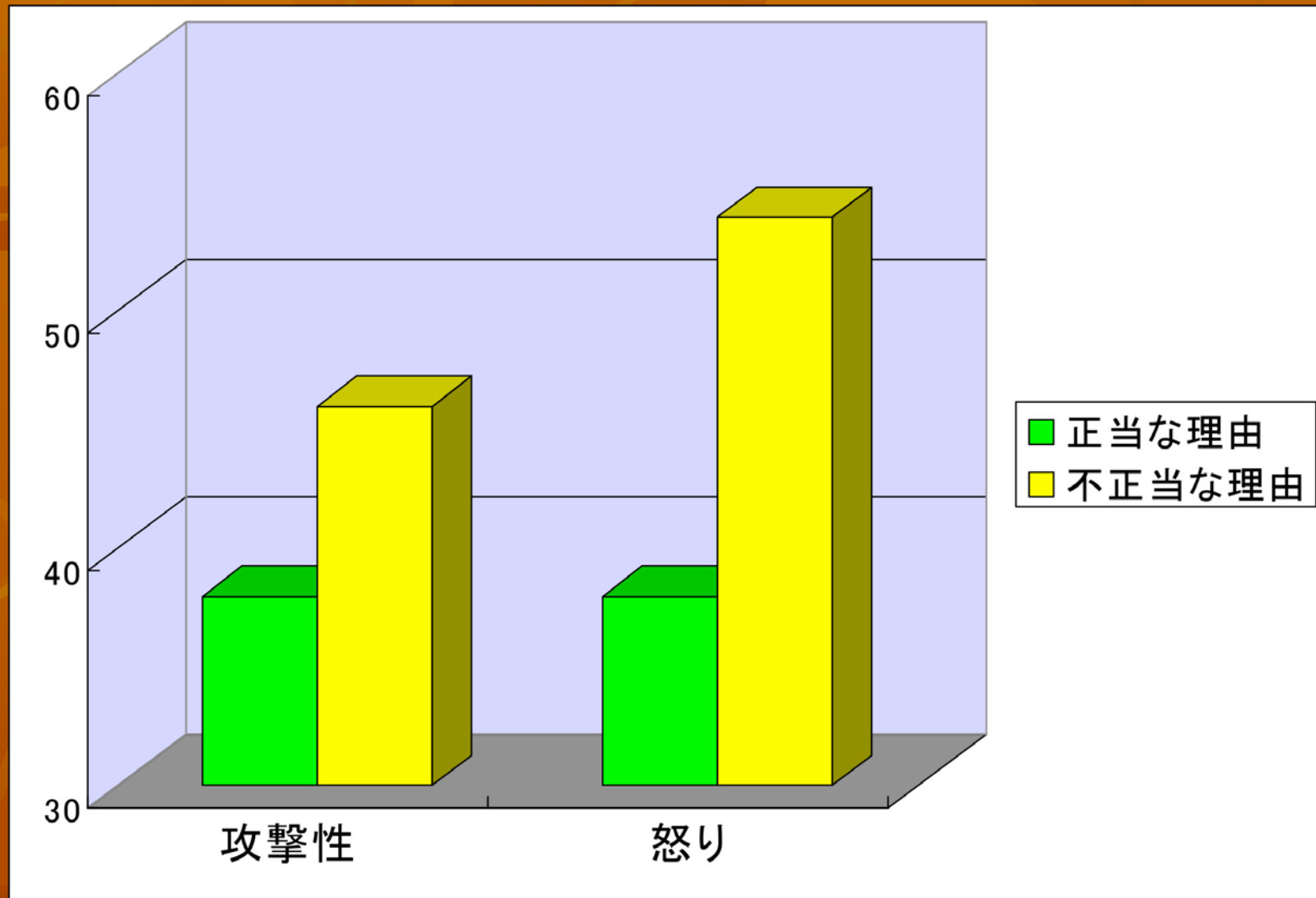
# 人格のタイプと死亡確率



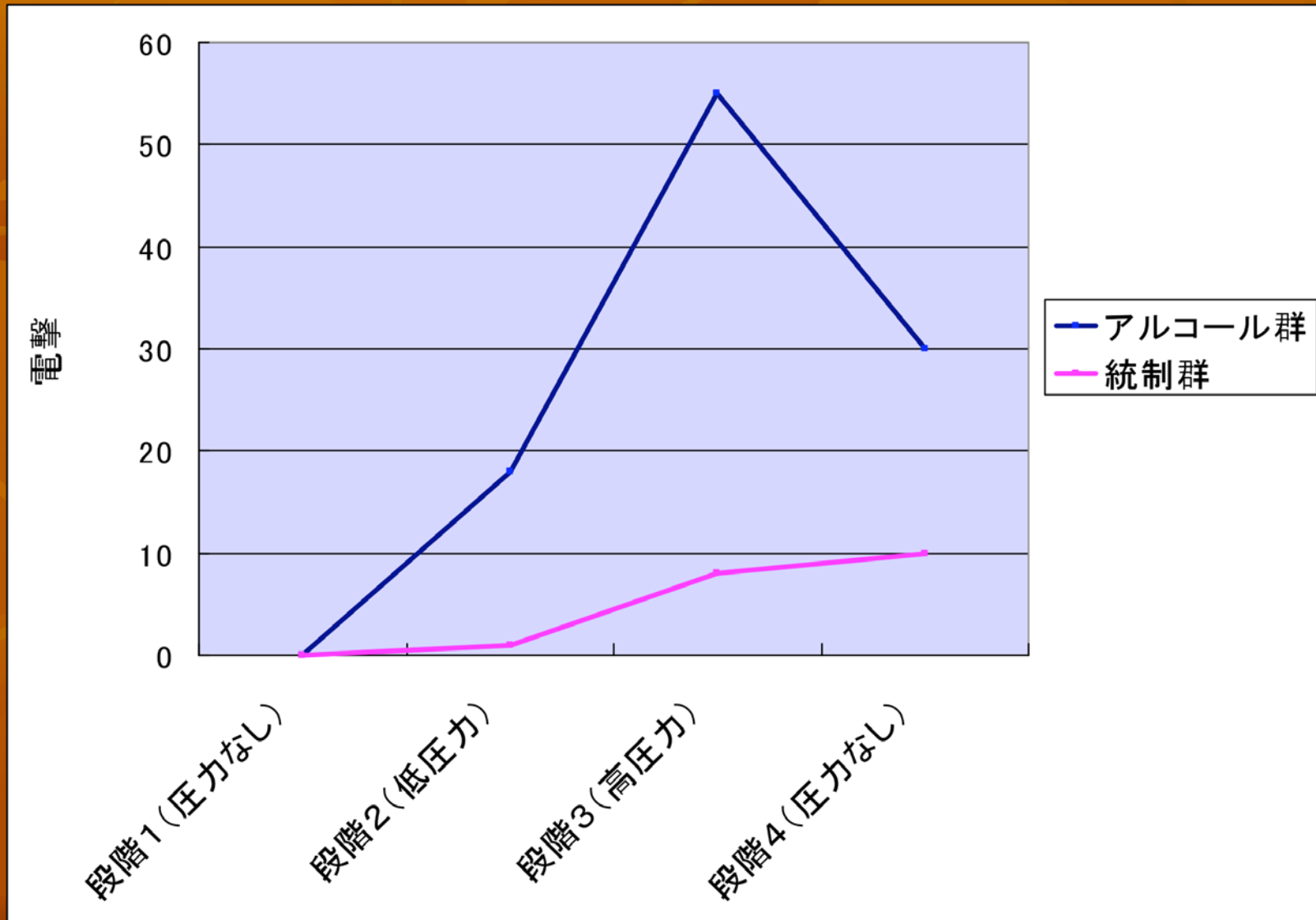
# 攻撃性の説明(介入変数)

- 動機付け
  - 欲求不満・攻撃性仮説
- 覚醒状況
  - アルコールと攻撃性
- 原因帰属バイアス
  - 欲求不満原因の合理性
  - 攻撃性意図の認知

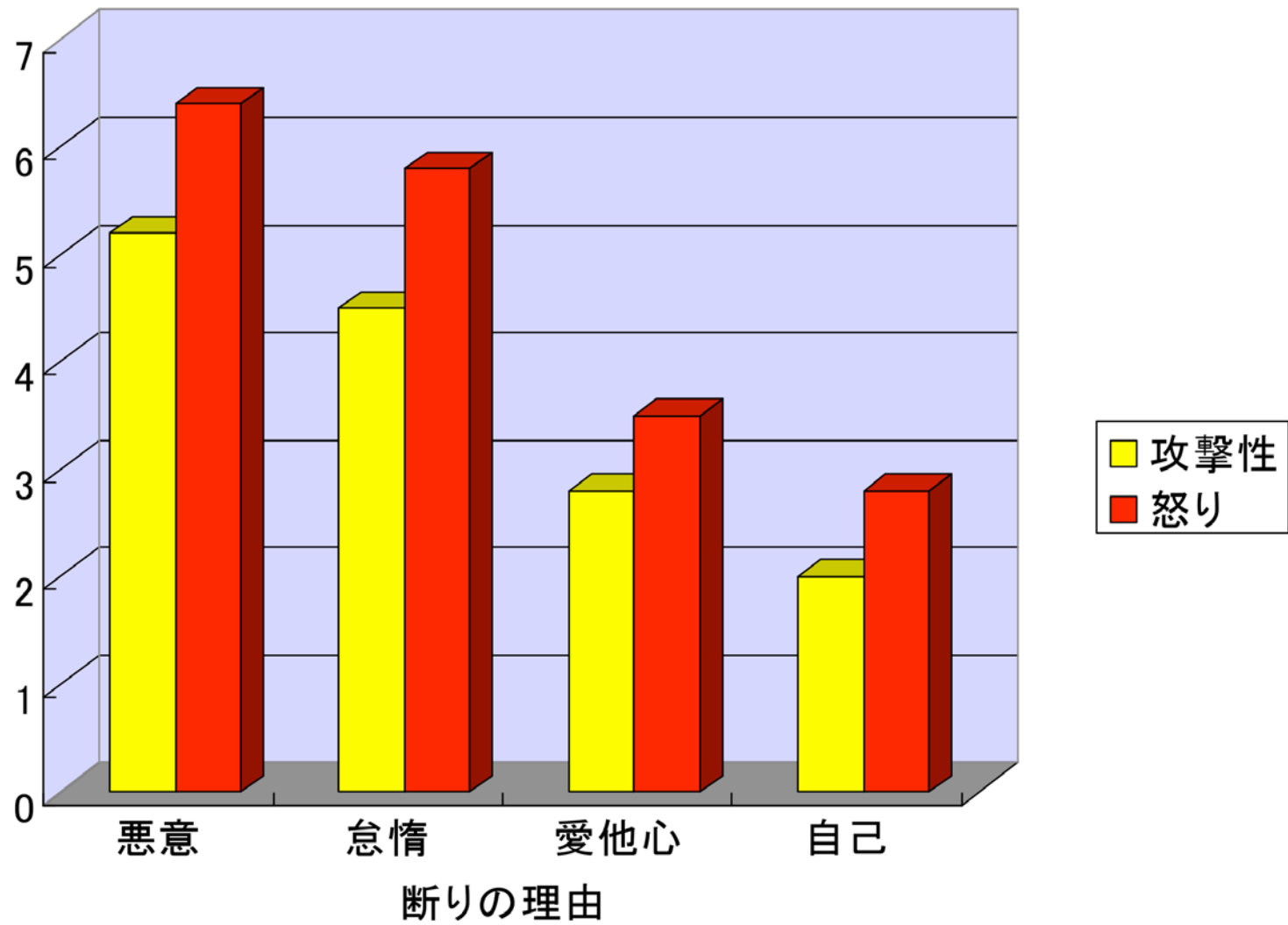
# ボランティア活動の断りの理由



# アルコールと攻撃性の関係



# 旅行計画の断りの意図性





# テレビ視聴と攻撃性の獲得

- 模倣学習
- 条件付け
  - 脱感作 desensitization
- 「残虐的な世の中」症候群 mean world syndrome
- 子供の攻撃性学習
  - テレビ視聴と暴力行為の関係
  - 親の共同視聴行動の無関心
  - メディア・リテラシーの欠如

# 条件付け: 脱感作(従来の反応)

攻撃を受ける

無条件刺激

不快感

無条件反応

テレビの暴力

条件刺激

不快感

条件反応

# 条件付け: 脱感作 (新たな反応)

快適な環境

無条件刺激

快感

無条件反応

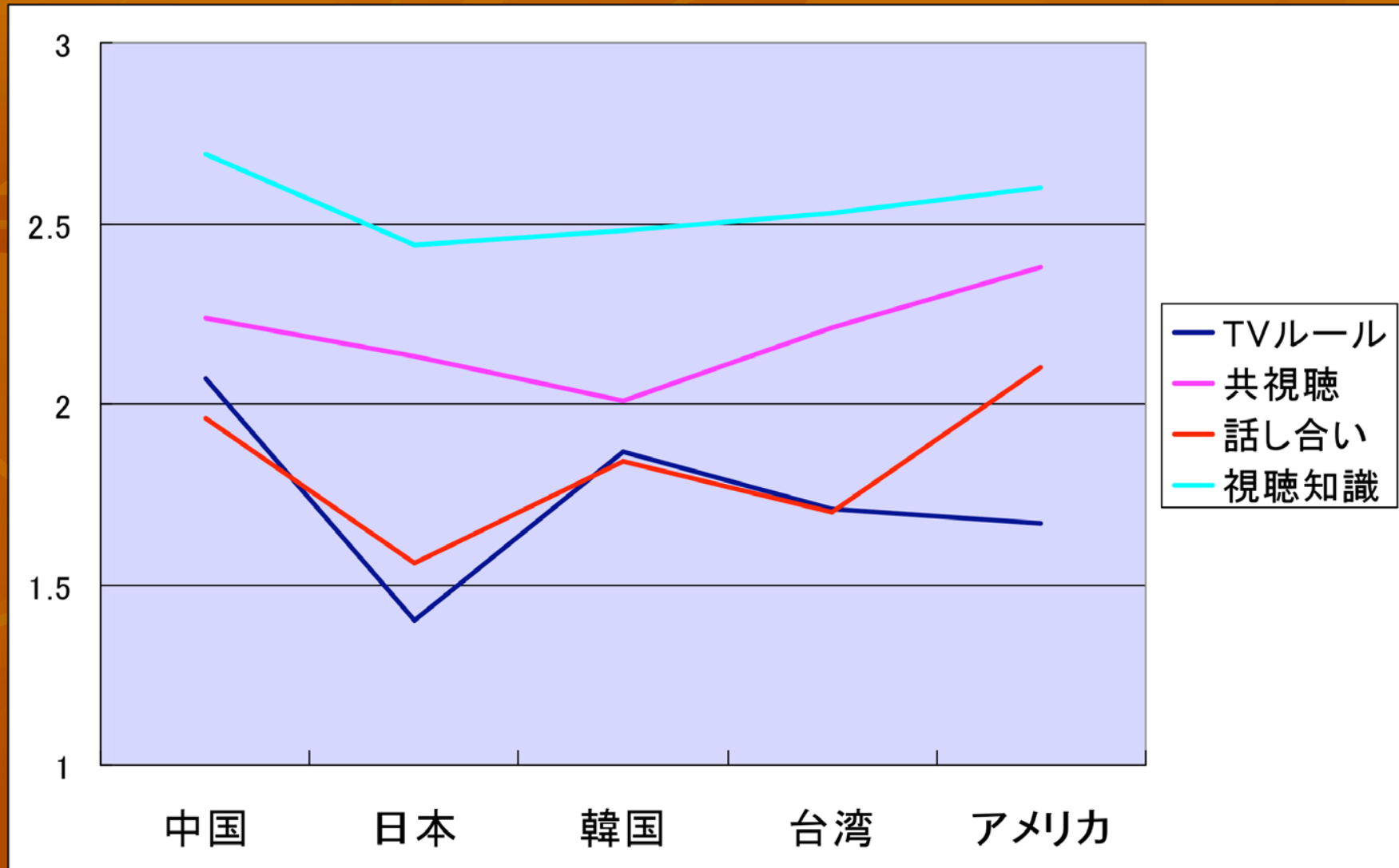
テレビの暴力

条件刺激

快感

条件反応

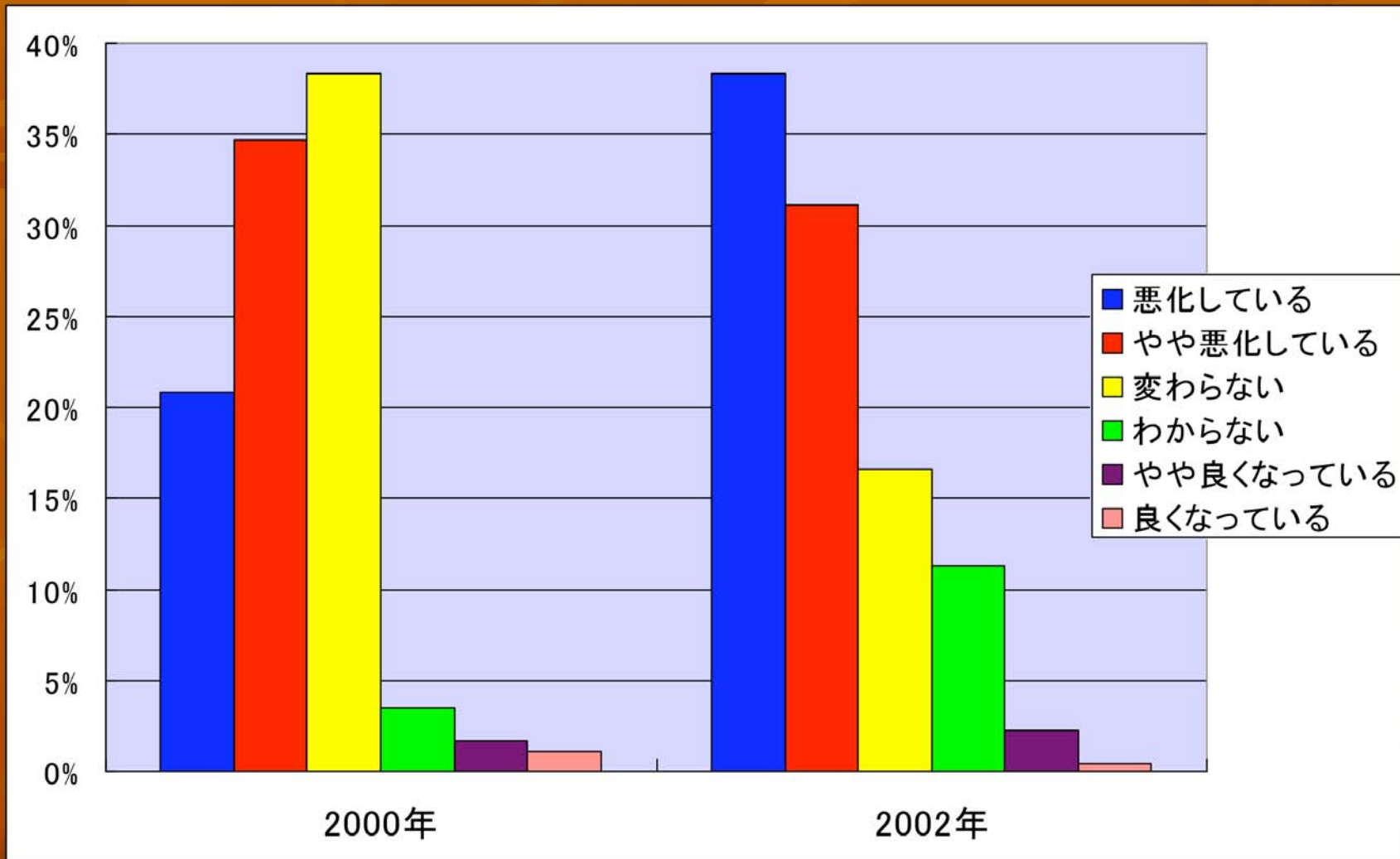
# 子どもの視聴行動へ親の介入



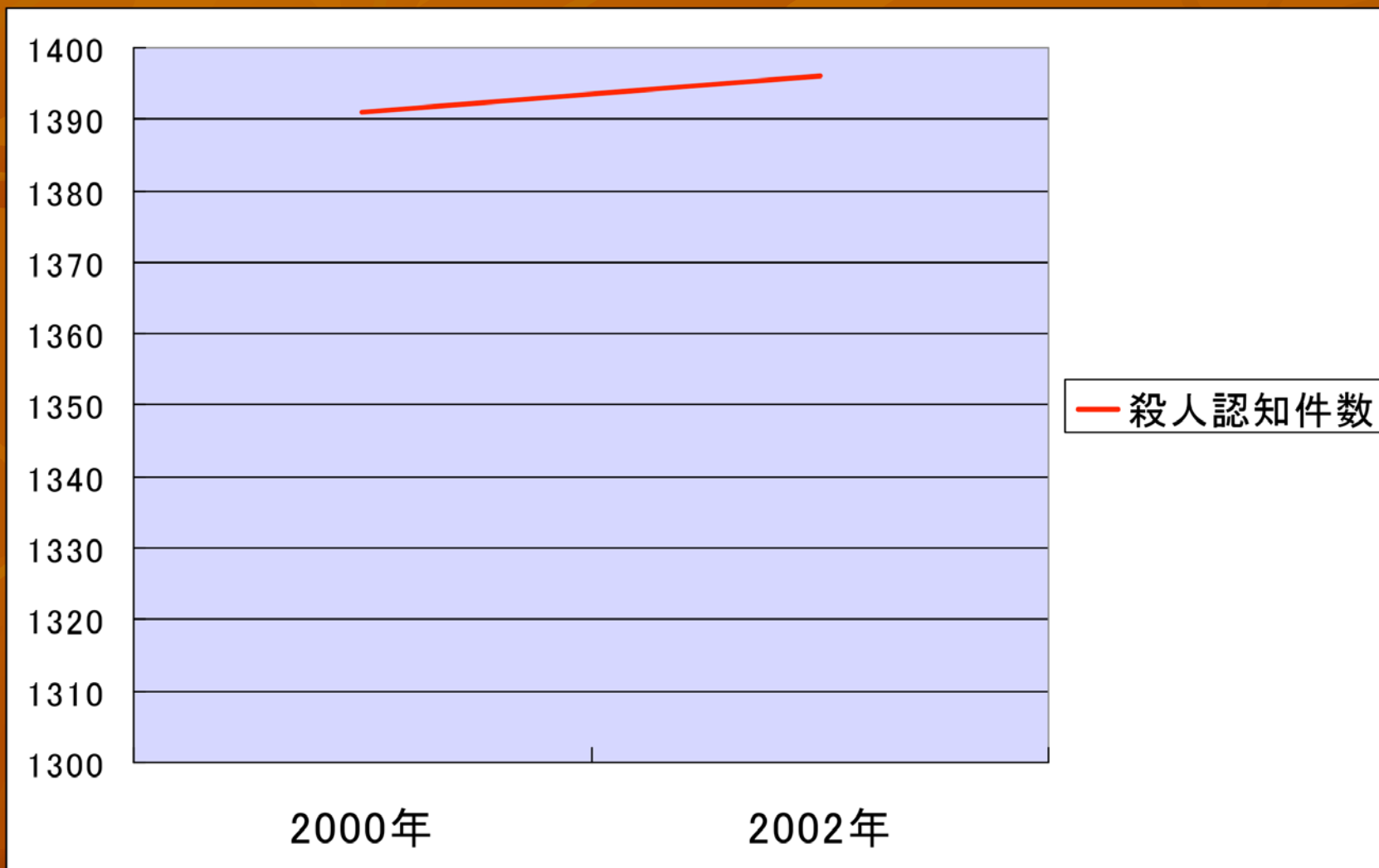
# 残虐な世の中症候群

- Reality television を通じて視聴者は世の中は実際よりも残虐であると思う
- アメリカの殺人率は90年から急激に減少しているにもかかわらず、毎年治安が悪化していると信じる人は上昇している
- この原因はreality television による残虐な世の中症候群である
- Mean world syndrome

# 茨城県民の治安意識の変化



# 殺人認知件数



# 暴力映像の規制

- 共視聴行動の推奨
- V-chipの導入
  - 米国では1999年から実施
- 番組の冒頭の警告の導入
  - 米国では1997年から実施



# 暴力映像の国際比較

- 日英米の比較によると:
  - 攻撃行為の持続時間は英 > 日 > 米
  - 攻撃行為の強度は英 > 米 > 日
  - 攻撃行為の正当性は日 > 米 > 英
  - 攻撃行為の日常性は日 > 英 > 米
  - 加害者の平均年齢は日 > 米 > 英
  - 被害者の平均年齢は日 > 米 > 英
  - 日本は武器使用の暴力が最も少ない
  - 日本は精神的な攻撃性が最も多い

# 暴力映像の肯定説

- カタルシス効果説

- 想像やゲーム・メディア摂取による暴力願望の発散

- aggression displacementと呼ばれる

- 正当化された暴力

- 暴力映像を通じて、暴力の惨さを実感させる

# 暴力減少の技法

- カタルシス
  - 暴力欲求の発散
- 社会的制裁
  - 暴力行為に対する厳格な法律・規範
  - シンガポールの犯罪率と法律の厳格性
- カウンセリング
  - 暴力の行為者に対する的確なカウンセリング
  - 例えば、road rage に対するカウンセリング

# 暴力減少の技法(続き)

- 反暴力的な感情介入
  - ユーモア、共感、性的覚醒
- 社会的規制とモデリング
  - メディアにおける反暴力的・非暴力的モデルの奨励・起用
- 認知的方略
  - メディアリテラシー教育
  - Anger management (感情抑制) トレーニング
  - コミュニケーション技能の向上
  - 選択的強化

# まとめ

- 攻撃性は部分的に学習される特性である
- そのため文化の影響は大きい
- 文化は社会的学習を通じて攻撃性を子供たちに培う
- 文化は社会におけるあらゆる暴力事件に起因している
- 暴力を撲滅するのも文化次第である
- 暴力低減のための運動の奨励が必要